



e-Learning
from

四国 便り



創刊号

index

センター長からのご挨拶	P 1
センター四国及び分室の紹介	P 2
平成30年度 知プラ e 開講科目一覧	P 3
四国はなだより「開花」	P 6
編集後記	P 9



知プラ e 広報誌「e-Learning 便り from 四国」発刊にあたり

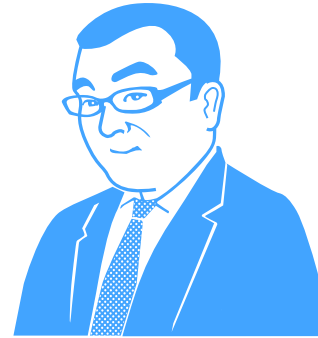
初めまして、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国センター長の林敏浩と申します。本センターは、四国 5 大学（徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学）連携による知のプラットフォーム形成事業の一つである、「四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」事業（知プラ e 事業）を所掌する部局となっております。

本事業では、これまで 5 年間にわたり e-Learning の手法を活用して大学教育の共同実施を推進してきました。知プラ e 事業はこの間、国立大学改革強化推進事業として補助金が投入されてきましたが、平成 30 年度より今後 5 年間の継続が連携大学間で合意され、事業の自走状態に入りました。また、これまでの組織・運営体制をそのまま維持・継続するのではなく、2008 年に四国の国公立 8 大学が連携して設立された e-Knowledge コンソーシアム四国（以下、eK4）を発展的に統合して、新しい知プラ e 事業が動きはじめました。

これまでの 5 年間は、主にホームページ (HP) と年間報告書で事業内容を発信しましたが、eK4 で定期的に発行していましたニュースレターを継承し、新しい広報チャンネルとして、「e-Learning 便り from 四国」を発行することになりました。これにより情報発信頻度を高め、硬軟おりました事業内容発信ができればと思っております。

このように説明しますと、ニュースレターの名前を替えただけにも見えますが、改めて、「e-Learning 便り from 四国」の役割を考えてみたいと思います。とは言うもののあまりまとまっていますが、個人的な見解ということでお読みください。私は、「e-Learning 便り from 四国」を以下の 3 つの役割に注意して発行していきたいと思っております。

- (1) 本事業を知る起点としての役割
- (2) メディアミックスな情報源としての役割
- (3) 本事業のアクティビティを示す役割



大学連携 e-Learning 教育支援センター四国
センター長 林 敏浩

「e-Learning 便り from 四国」は本事業の種々の側面を簡潔に情報発信することが求められていると考えますので、その意味で (1) は大事な役割になります。ICT に着目すれば、本誌は事業 HP に PDF として公開されますので、リンク情報などを駆使して本事業の詳細にアクセスが容易にできるようにしたいと思っています。一方、(2) では、その PDF を印刷して紙媒体の情報源として使うことも想定しています。紙媒体としても十分情報発信ができるようにしたいと思っています。(3) は少し毛色が変わりますが、「発行し続ける」ことを意識しています。これにより本事業のアクティビティを可視化するモノとして、しっかり発行し続けたいと考えております。

さて、ここまでで述べていない大事な観点があります。それは、「何を発信するのか、そして、なぜ、それを発信するのか」を常に考えないといけないということです。当然ながら我々はそれを考えて「e-Learning 便り from 四国」を作りますが、やはり、それを読まれる方々のご意見も重要と思っております。ICT の利活用が前提ですが、作り手と読み手の間に双方向の情報交換もできればと思っております。

つらつらと書かせていただきましたが、紙面の関係でここまでとさせていただきます（本当はもっと書きたいのですが）。それでは、お待たせしました。本号をお読みいただければと思っております。そして、今後ともよろしくお願ひします。

大学連携 e-Learning

教育支援センター四国 及び 分室の紹介

分室等から、学生の
皆さんへのメッセージ



徳島大学
マスコットキャラクター
とくぼん

徳島大学分室

徳島大学分室では、2018年度は合計 11 科目の多様な教養科目を提供します。e-Learning は一人で孤独に学ぶイメージがあるかもしれませんが、科目によっては電子掲示板で学生同士または教員とディスカッションをする事もあります。学生のみなさんがオンライン上で有意義な学修ができるよう、科目担当教員とともに、分室教職員一同も精一杯サポートさせていただきます。多くの方に履修していただけることを楽しみにしております。

鳴門教育大学分室

鳴門教育大学は学校教育を専門とする単科大学です。入学定員は学部 100 人、大学院 300 人。特に大学院では様々な学部出身で教員を志す学生に対して教員養成を行っており、なんと教員就職率全国 1 位です。本学から提供する授業「学校教員の世界」は、各教科の学校教員と大学教員とのコラボによって制作されたお勧めの授業です。



その他、学校教育に関わる内容の科目を中心に、徳島の地域性や教員の専門性を活かした科目を提供しています。

センター四国 (香川大学)

香川大学では、教員 3 名、事務員 2 名、事務補佐員 2 名、技術補佐員 2 名の体制で大学連携 e-Learning 業務全般にあたっています。なお、技術的な面については、総合情報センター教育デザイン部門(通称:e-Learning 相談室)の技術補佐員 4 名にサポートしてもらっています。

知プラ e 科目の受講に際してもし分からないことがあれば、修学上のことについては大学会館 2 階にある修学支援グループへ、Moodle の操作など技術的なことは総合情報センター 2 階にある e-Learning 相談室へいつでも質問しにきてください。それから、ときどき教室等で行っている授業の撮影にいくことがあります。その時は撮影にご協力をお願いしますね。

愛媛大学分室

愛媛大学分室では、2018 年度は後期に 12 科目を提供します。2018 年度から新しく増えた科目の中には、「昆虫と環境」「身の回りの放射線」「和算の世界」など、他ではあまり見かけないような、独創的な科目を多数準備しています。自分の大学の中だけでは出会うことができないような、様々な科目と出会うことが、知プラ e 科目の特徴です。

皆さんには、いろいろな大学が提供する多彩な科目を受講して、「この科目おもしろかったな」「この科目有意義だったな」と思ってもらえれば嬉しいです。



高知大学分室

連携大学の皆さん、高知大学分室です。就職してから必要になる能力の中に、マネジメント力があります。皆さんに与えられた一日は平等に 24 時間ありますが、効率よく使うためにはマネジメントが必要です。e-Learning は誰からも強制されず、決まった教室や時間も無く、自分で積極的に取り組むしかありません。究極のアクティブラーニングです。e-Learning 科目で学ぶと同時に、セルフマネジメント力を身につけましょう。





知プラ e 開講科目一覧

前期 19 科目、後期 42 科目の、合計 61 科目を共同開講します。

科目提供大学	授業科目名	授業概要	担当教員
徳島大学	徳島で暮らす・徳島で働くを考える	徳島県内の第一線で活躍するリーダーや県内高等教育機関のOB・OGを講師に迎え、経験の中から生まれた確信や考え方を語ってもらうと共に、ディスカッションを行い、主体的に考える。	川崎克寛
鳴門教育大学	阿波学	四国遍路の歴史や文化、歩き遍路体験者の心理等について、講義を通して学ぶ。	藤原伸彦ほか
	デジタルモノづくり入門	3D プリンタを使うと、誰でもが簡単にものづくりできる。必要があれば世界中の工作機械を使って本格的に生産することもできる。このようなデジタルものづくりの世界を紹介するとともに、3D-CAD を使った簡単な設計の演習を行う。	宮下晃一
	学校教員の世界	キャリア教育の一環として、様々な学部で学ぶ学生に対して学校教員という職業の魅力や課題を伝え、学生が自らの将来設計のために大学で何を学ぶべきかに気付くための機会を提供します。	竹口幸志ほか
香川大学	瀬戸内海論 その1	瀬戸内海の問題、資源問題を対象に調査研究している研究者によるオムニバス形式の授業。物理学、生物学などの自然科学的観点から瀬戸内海の問題、資源問題に接近すると同時に、法学などの観点からも対象に接近する。	原直行
	瀬戸内海論 その2	瀬戸内海の問題、資源問題を対象に調査研究している研究者によるオムニバス形式の授業。化学、生物学、地学などの自然科学的観点から瀬戸内海の問題、資源問題に接近すると同時に、経済学などの観点からも対象に接近する。	原直行
	香川の文化と歴史 その1	香川の地域特性のひとつとして、瀬戸内海とこれにまつわる生活環境や文化を挙げる事ができる。本科目では、瀬戸内海地域に焦点を絞り、歴史と生活・習俗について概観する。毎回、各分野・地域の専門家が文化と歴史にまつわるトピックについて講義をおこなう形式ですすめていく。	原直行ほか
	香川の文化と歴史 その2	香川の地域特性のひとつとして、瀬戸内海とこれにまつわる生活環境や文化を挙げる事ができる。本科目では、瀬戸内海地域に焦点を絞り、離島の生活・習俗を概観する。毎回、各分野・地域の専門家が文化と歴史にまつわるトピックについて講義をおこなう形式ですすめていく。	原直行ほか
	四国の歴史と文化 その1 歴史編	四国の歴史・文化について講義する。各回では、四国で活躍した人々の事績や、都と四国との結びつき、四国に残された遺跡・史跡など、四国の歴史に関わるテーマを取り上げる。	守田逸人ほか
	四国の歴史と文化 その2 文化編	四国の文化について講義する。各回では、四国の風土や歴史に関わる文学作品や方言の内実などに関するテーマを取り上げる。	渡邊史郎ほか
	コンピュータと教育 その1	近年、情報通信技術 (ICT) を活用した教育が様々な教育機関で実施されるようになってきた。このような情報通信技術 (ICT) を活用した教育・学習、それらを支える教育・学習システムについて講義する。	林敏浩
	コンピュータと教育 その2	近年、情報通信技術 (ICT) を活用した教育が様々な教育機関で実施されるようになってきた。また、予習・復習など自宅等における学習者主体の学習にも情報通信技術 (ICT) の利用が増えてきている。本講義ではこのような情報通信技術 (ICT) を活用した教育・学習、それらを支える教育・学習システムについて講義する。	林敏浩
	人工魚礁の開発と環境保全	我が国沿岸海域における水産資源生産力の向上のための施設として、様々な人工魚礁が開発されてきた。本講義では、人工魚礁開発の歴史と人工魚礁の有すべき水産資源生産力向上および環境改善機能について、実海域における具体例を挙げながら解説する。	末永慶寛
高知大学	気象学入門	気象に関わる様々な現象は大気の運動や状態変化に伴って発生する。地球上の大気の動きを演示実験などにより説明するとともに、雨雲のできる様子、気象災害の起こる原因や、天気図の見方などについて解説する。	佐々浩司
	有機化学概論 初級	有機化学の教科書を毎回1章、教科書にそって化合物の名前、分子の構造、反応、酸と塩基、官能基、生化学物質と医薬品の順に進めます。まず自分で教科書をよく読んでください。その上で説明文をノートに書いてみましょう。	立川明
	海洋基礎生態学	海洋生態系における有機物の低次生産・消費・分解・無機化のメカニズムを解説したあと、このような海洋の物質循環に影響を与える環境要因とは、健全な海洋環境とは、また海洋生態系のバランスが崩れるとどのような影響が出るのか、それを防ぐにはどうすればよいかといった環境保全について考える。	深見公雄
	大学生活入門	大学生活を有意義に過ごすための手助けをする科目です。大学卒業後にどうなっていきたいのか、それに向けて何をすればよいかを具体的に考えていくための活動をいくつも用意しています。	立川明
	アクティブラーニング入門	いくつかのアクティブラーニングのパターンを教材化していますので、この教材を受講者がアクティブ (能動的) に学んでアクティブラーナーとなり、将来、アクティブラーニングの実践ができるようになることを目指しています。	立川明
	海洋地球科学概論	太陽系惑星で唯一存在する海洋の成り立ちと役割について学び、地球規模での様々な物質循環や気候変動について理解する。	村山雅史

科目 提供 大学	授業科目名	授 業 概 要	担当教員
徳 島 大 学	日本におけるドイツ 兵捕虜 1914-1920 ー四国の収容所を中心にー	第一次世界大戦における日本の青島攻略により、ドイツ兵などの捕虜約 5000 人が日本各地に抑留された。とりわけ徳島県にあった板東俘虜収容所では、捕虜たちの文化上・経済上の諸活動や地元住民との交流がさかんにおこなわれ彼らによってベートーヴェンの第九交響曲全曲が日本ではじめて演奏された。	井戸慶治
	モラエスの徳島 ーグローバリズムと異邦人ー	ヴェンセスラウ・デ・モラエスの生涯とその作品を眺め、ゆかりの場所を紹介しながら、理解を深め、同時に異文化理解というものを考える。	宮崎隆義
	現代科学と研究倫理	現代社会における科学技術に目を向ける。現在の生活は、科学技術の成果によって成り立つことから、研究とは何かについて考える。現代の研究は、多岐にわたることから、多様な研究分野に触れ、いろいろな研究フィールドに内在する倫理上の問題を、具体的な事例に基づき考える。企業との関わりについても触れる。	金西計英
	知の探訪	大学では「研究する」ということが、学びの中心に据えられる。大学における学習について、主体的に学習を進める態度を身につける。大学における「研究する」ということに関し、自らの言葉で説明できるようになることを目指す。	金西計英
	大学の知の活用	本講義では、大学の知の活用に必要な基礎知識を紹介した上で、四国地域における具体的な大学の知の活用に関する取り組みを紹介する。	織田聡
	大学教育を考える	大学教育に関する 14 のトピックについて、関連する知識を得るとともに、各トピックに関連する問題点を考えることが本授業の目的です。	吉田博
	行動統計学入門	社会科学や行動科学を学ぶ際、目的をもって集められたデータを整理し、その中に存在する情報を記述統計、推測統計の手法を用いて分析、理解することが必要となる。統計学の基本的な手法を具体的な演習課題をエクセルで解きながら学習する。	川野卓二
	数理科学の世界	数学の歴史、古代から近代文明に見ることの出来る数学の様相（西洋だけでなく江戸時代や中国の数学を含む）、美術で使われる数学理論、数学を取り扱った文学音楽理論に現れる数学の理論、数学者の人間像、占星術で使われる数学など。	大淵朗
	外国人と 四国遍路の歴史	四国遍路の 1200 年の歴史における外国人の歴史を細かく取り上げて、彼らが持っている四国遍路についての感想や思いを考察して、世界への四国遍路 P R 活動、そして、これからの課題（例えば、世界遺産運動）を紹介する。	モートン 常慈
	文化心理学入門	心理学のなかでも、ヒトの心と道具、社会、歴史との関連に着目する「文化心理学」あるいは「社会・文化・歴史的アプローチ」と呼ばれる理論群について、具体的な研究事例を挙げながら講義する。	川野卓二
鳴 門 教 育 大 学	自動車概論	自動車社会の一員として責任をもって自動車と関わっていく上で知っておくべき自動車の社会的な役割と弊害、構造と技術、日常点検と整備の方法、万一の事故対応や保険制度、環境やエネルギーの世界的な動向と地域社会における必要性等について幅広く解説する。	宮下晃一
	子どもと学校	時代とともに子どもを取り巻く社会環境は変化してきました。本講義では、子どもの遊び、子ども同士のかかわり、子どもと親のかかわり、子どもと教師のかかわり、子どもと学校のかかわり、地域のかかわりなどを取り上げ、これからの教育について考えます。	竹口幸志
	情報社会のくらし	本講義では、情報政策、情報経済、情報と法、情報教育、情報と倫理の観点から情報社会のくらしについて考察します。日々刻々と変化する社会において、情報技術が及ぼす影響やこれからの情報との付き合い方について考えてみましょう。	竹口幸志
香 川 大 学	情報科学 情報のいろは	情報は我々の生活を考える上で必ず出てくるキーワードである。我々が扱っている情報とはどのようなものなのか、本講義では情報を様々な視点から俯瞰してその特徴について講義する。	林敏浩 ほか
	地域コンテンツと 知財管理 その 1	地域コンテンツを紹介しながら、知財管理の基礎的知識について講義する。各回では発明やブランドの保護といった知財管理の基礎的な事項についてとりあげる。	林敏浩 ほか
	地域コンテンツと 知財管理 その 2	地域コンテンツを紹介しながら、知財管理の基礎的知識について講義する。各回ではインターネット時代におけるコンテンツやデザインの保護といった知財管理の基礎的な事項についてとりあげる。	林敏浩 ほか
	香川を学ぶ その 1	香川県に関することを多視的な側面から取り上げて講義する。具体的には、栗林公園などの歴史、伝統食、文化財、及び産業の一端を紹介する。	藤本憲市 ほか
	香川を学ぶ その 2	香川県に関することを多視的な側面から取り上げて講義する。具体的には、香川におけるまちづくりの事例、水問題、瀬戸内海、災害などに関する事柄を紹介する。	藤本憲市 ほか
	高度情報化社会の 歩き方	高度情報化に伴い、我々の社会環境は益々創造的で豊かになる一方で、その反面見落としがちな諸問題も生まれている。高度情報化社会に伴う我々の社会環境における現在、そして今後の予測に対し、光と影、それぞれの一端を紹介し、人と情報がどのように接すれば、より豊かな生活を実現できるか学ぶ。	後藤田中 ほか
	瀬戸内地域活性化政策 その 1	香川大学が瀬戸内地域の様々な活性化策に取り組む「瀬戸内地域活性化プロジェクト」を通じて、その背景となる課題と解決策を学び、地域活性化について考える機会を幅広く提供する。	清國祐二
	瀬戸内地域活性化政策 その 2	香川大学が瀬戸内地域の様々な活性化策に取り組む「瀬戸内地域活性化プロジェクト」を通じて、その背景となる課題と解決策を学び、地域活性化について考える機会を幅広く提供する。	清國祐二

科目提供大学	授業科目名	授業概要	担当教員
香川大学	四国の自然環境と防災 その1	何気なく見逃している四国の驚くような自然環境の仕組みを探す旅に出よう。地形が語る壮大な四国形成史のドラマ。豪雨地帯と乾燥地帯の同居する島に生きる人々の水資源を求める知恵の数々。「美しさ」を取り戻したかに見える瀬戸内の環境に忍び寄るかつてない危機。	寺尾徹ほか
	四国の自然環境と防災 その2	何気なく見逃している四国の驚くような自然環境の仕組みを探す旅に出よう。地球最大級のプレート境界型地震・東南海・南海地震の危険が迫る太平洋岸。それとたたかおうと立ち上がる地域の力。自然の営みと人間の関わり方の新たな模索。	寺尾徹ほか
	四国の地域振興 その1	四国における地域振興の取り組み。(1) 産業：各県の地場産業が地域の中で果たしている役割や活性化策。(2) 交流や文化振興による地域づくり：これに関わる代表的な事例など。(3) 地方制度：近年の地方分権改革との関わりで各県の将来像を考える。	林敏浩ほか
	四国の地域振興 その2	四国における地域振興の取り組み。(1) 産業：各県の地場産業が地域の中で果たしている役割や活性化策。(2) 交流や文化振興による地域づくり：これに関わる代表的な事例など。(3) 地方制度：近年の地方分権改革との関わりで各県の将来像を考える。	林敏浩ほか
愛媛大学	アカデミック・プレゼンテーション (PowerPoint 編)	「伝わるプレゼンテーション」で、分かりやすく効果的な研究発表を行うことができるようになることを目指します。本授業では、プレゼンテーションソフト Microsoft Office PowerPoint を用いて、「伝わるプレゼンテーション」を行うために、スライド修正の実践演習を交えながら必要な技術を修得します。	仲道雅輝
	インドネシアの文化と会話	世界最大の島嶼国家であり、多様な民族からなるインドネシアは、日本とも歴史的・経済的に深いつながりをもっている。インドネシア語の初歩的な会話と基本文法を、インドネシアの習慣や文化を交えながら学ぶことで、インドネシアの言語と文化の理解を深める。	島上 宗子
	研究倫理	卒業論文作成や将来研究者・科学者になる人だけでなく、科学技術を利用して生活する私たちが持っていなければならない倫理観とは何かについて考え学ぶ。我々の生活は、科学技術の成果の上に成り立っており、科学技術が社会に及ぼす影響は計り知れないほど大きい。	田中寿郎
	昆虫と環境	昆虫は地上のありとあらゆる環境に進出し繁栄しているグループで、知られている種だけでも約10万種(実際には50万種はいるだろう)いて、全動物の種数の80%以上を占めるといわれている。このように多様な昆虫についてその特徴を理解し、どうして多様性が増大し得たのかを考える。	小西和彦
	私たちの生活と材料	私たちの生活の中で利用されている様々な機能を持った材料について紹介します。それら材料の開発の経緯や要求される特性をいかに引き出すかなどについて説明します。また、資源・環境・エネルギーの点で循環型社会を構築するために不可欠な機能材料についても解説します。	小林千悟
	身の回りの放射線	現在われわれの身の回りには産業機器、エネルギー、安全管理、医療・福祉などの分野で放射線を利用した様々な技術が使われています。放射線とはいったい何。なぜ危険なのか。安全に利用する手法はあるのか？身の回りにおける放射線について基本的な性質と安全に利用するための方法を学びます。	田中寿郎
	和算の世界	和算とは西洋の数学が入ってくるまでの日本の数学、特に江戸時代に普及・発展した日本の数学のことをいいます。当時は、和算を楽しむ人が数学の問題を算額とよばれる絵馬にして神社・仏閣に奉納する習慣がありました。和算に関して、その歴史、計算の道具、図形公式、算額に記された図形問題などを学びます。	平田浩一
	ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	今から約10000年前、自然銅が利用され始め、製錬して銅を得るまでに数千年、さらに鉄を製錬するまでに数千年と、長い時間をかけて古代人は金属を生活の中に取り入れた。その過程で金属の技術や価値は大きく変わってきた。金属の技術や利用のあり方を通じて、ユーラシア大陸のダイナミックな歴史を学びます。	村上恭通
	タンパク質で生命を斬る	一般的にタンパク質とは、健康を維持する栄養素という印象でしょう。実はそれ以外にも人の生命維持という重要な役目があり、その役割を理解すると、これまで「なぜ」であったものが理論的に説明できると気づきます。最先端のタンパク質に関係する研究に触れながら、タンパク質の力と魅力について伝えます。	坪井敬文
	大学生のための『安全・安心』の基礎講座	安心とはどういう状態であろうか。この講義では、全ての人が安心して暮らせるために、その根本となる安全と健康について、個人としてできることや組織として管理する時の注意などについて、基礎的な知識を習得する。	田中寿郎
高知大学	太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	本講義では、太陽光植物工場における知能的農作物生産を支えるスピーキング・プラント・アプローチ技術(植物診断に基づいた環境制御)をはじめ、環境制御の基礎となる気温・湿度および暖房、植物の最も重要な環境応答である光合成と蒸散について学びます。	高山弘太郎
	飛行機はなぜ飛ぶのか	まず、世界と日本で飛行機がどのように生まれたかを説明して先人の想像力や洞察力、工夫を見習う。その後、揚力や抗力といった飛行機にかかる力がどのように発生するのかを学び、有人飛行では不可欠な安定性について考える。これらの知識を取り入れて、紙飛行機を作って飛ばしてみることを計画している。	岩本幸治
	サイエンスリテラシーの化学	教科書に沿って、酸塩基、衣服、洗濯、プラスチック、料理、コロイド、医薬品、石油、セラミックス、電池、家電、三態、環境の順に進めます。まず教科書をよく読み、その上で説明文をノートに書いてみましょう。説明文の中から、具体的に重要な事柄を各パラグラフから1つ選び、説明文を完成させます。	立川明
	インタフェースデザイン概論	本授業では、ヒューマンインタフェースの概念や人間の特性、情報システムの使いやすさ等について概説し、主にソフトウェアのユーザインタフェース設計手法について言及する。情報システム等の使いやすさの論理的な評価方法や、使いやすさを意識したGUI設計の考え方を学ぶ。	三好康夫
	キャリアで活かすITリテラシー	ITパスポートの教科書に沿って、ストラテジ、マネジメント、テクノロジーの順に進めます。まず教科書をよく読み、重要なポイントを説明文に起こしてみましょう。説明文のうち、具体的に重要な事柄を3つ選んでレポートとして提出します。その上で章末問題に解答しましょう。	立川明
高知大学	学びの統合入門	大学での学びを意味のあるものにしていく手助けをする科目です。講義ノートの取り方、取り組み課題に関連する情報収集の仕方、集めた情報の管理の仕方、そして、収集・管理している情報などからレポートなどのアウトプットにつなげる具体的な方法を学びます。	立川明
	有機化学概論 中級	有機化学の教科書を毎回1章、教科書にそって原子の構造、分子の構造、化合物の名前、有機化合物の反応、官能基の順に進めます。まず自分で教科書をよく読んでください。その上で説明文をノートに書いてみましょう。説明文の中から、具体的に重要な事柄を各パラグラフから一つ選び、レポートにします。	立川明

blooming flowers 

四国はなだより「開花」




愛媛大学城北キャンパス 社会共創学部前 (愛媛大学提供)



香川大学 幸町南キャンパスにて (香川大学提供)

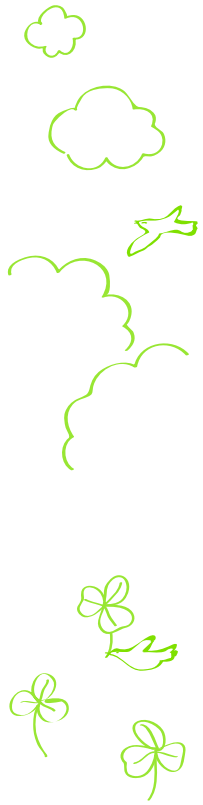


左 キャンパス通り～桜のカーペット (香川大学提供)



右 晴れの入学を祝う桜 (香川大学提供)





徳島大学のサクラ（徳島大学提供）



Cherry Blossoms



高知大学朝倉キャンパス
（高知大学提供）



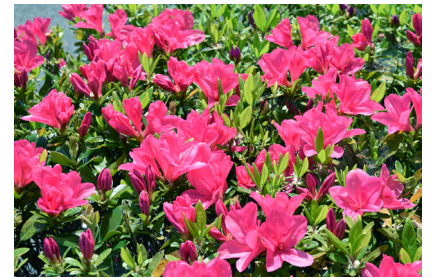
サクラ 鳴門教育大学講堂前 (鳴門教育大学提供)



オオイヌノフグリ
鳴門教育大学 陸上競技場



タンポポ 鳴門教育大学 陸上競技場



上から、レンギョウ 鳴門教育大学 日本庭園
ユキヤナギ 鳴門教育大学 日本庭園
サツキ 鳴門教育大学 構内歩道



Flower dances



青空に桜 (香川大学提供)



川下りで楽しむ春（藤本憲市先生 撮影）



編集後記

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国 藤本 憲市



知プラ e に関する情報発信媒体として、「e-Learning 便り from 四国」と題した広報誌を年 1 回発行することとなりました。今回は初刊ということで、今年度が開講される知プラ e 科目の紹介のほかに、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国センター長からのお言葉「知プラ e 広報誌発刊にあたり」を掲載しました。次号からは、e-Learning に関するコラム（時には e-Learning 以外のネタがあるかも！？）などを掲載していきたいと考えています。次号は平成 31 年 3 月に発行予定です。

e-Learning 便り from 四国 創刊号

平成 30 年 6 月発行

発行・制作 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国

〒760-8521 香川県高松市幸町 1-1

TEL : 087-832-1365

mail : chipla_el_info@cc.kagawa-u.ac.jp



徳島大学



ehime 教育大学



香川大学



愛媛大学



高知大学

知プラ e

検索

知プラ e ホームページ



<http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp>